

子どもたちにすばらしい本を

大館親子読書会の活動について

リポーター 長崎 誠 子さん（萩野台1区）

最近の子育ての話題といえはあまり明るい話を聞かないこの頃ですが、子どもたちに本の読み聞かせの活動を行っている『大館親子読書会』という素晴らしい団体があることをご存じですか？

読書好きのお母さんたちの会で、大館市立中央図書館を活動場所にしています。毎月課題図書を選びその感想を語り合い、子どもたちに本を読み聞かせており、その発足は昭和五十二年二月ととても歴史のある会です。代表の沓沢圭子さん取材し、その活動をリポートします。



長崎リポーター

親子読み聞かせ会

大館親子読書会の活動目的は、小さいときから絵本に親しむことで読書好きになってもらうことです。そして読み聞かせることで、テレビゲームなどにはない「人と人とのコミュニケーション」を通じて子供たちの豊かな感受性を育てようとしています。

そのため、会員自身の向上が必要と毎月一回学習会を行い、全員で課題図書を選びその感想を発表するなどごやかに研究を積んでいます。そして、毎月第一金曜日の午前十時三十分から中央図書館の児童コーナーで「親子読み聞かせ会」を開催。主に幼児から小学

校低学年の子どもたちを対象に絵本や紙芝居などを楽しく読み聞かせています。



母と子の絵本を楽しむ会

大館親子読書会が一番力を入れているのが、夏休みと冬休みの年二回行っている「母と子の絵本を楽しむ会」です。大型紙芝居やパネルシアターなどを使い、今年は夏休みに入って間もない七月二十三日に開催。中央図書館の児童コーナーには百人を超す親子が集まりました。

今回のメニューは全部で九作品。大型紙芝居の「ドラゴン」やパネルシアターを使った「大きなカブ」、人形劇「遠足のお弁当」など子どもたちが楽しめる作品のほか、広



笑顔を取り戻すために

島原爆の詩集「まちんど」など、子どもたちに伝えたい大事な作品もあります。単に楽しいだけでなくよく考えて活動されていることに感銘を受けました。最近では市内の大学生、高校生もこの催しに積極的に参加してくれます。今回も桂城短大を始め、桂高校などから絵本の読み聞かせに出演。子どもたちもお兄さんやお姉さんが読んでくれるお話に目を輝かせて聞き入っていました。お母さんと学生の共同ボランティアは珍しく、この催しの特色になっているとのことでした。

沓沢さんのお話では、現代は人と人との関係が希薄になってきており、子どもたちの本当の笑顔が少なくなっているとのことでした。これからの時代を担っていく子どもたち。絵本などの読み聞かせは、人として育っていくうえで大切なことで、できれば家庭でも両親が絵本を読んであげるような環境が大切と伺いました。

次回の「母と子の絵本を楽しむ会」は冬休みに計画しているとのこと。毎月第一金曜日に「親子読み聞かせ会」も行っていますので、未就学児童のいらっしゃる若いお母さんたちも一度中央図書館にいらしてはいかがですか？ きっと今までにない楽しい体験ができるかもしれませんよ。